
二年半の片思い

みさきみく

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

二年半の片思い

【Nコード】

N1170F

【作者名】

みさきみく

【あらすじ】

少女の切ない恋のお話。悲しいです。

・・・

東北の ある街

普通の女子高生の恋物語

まずは 街の説明から

新幹線は停まる

映画館も一応有る

花火が有名だけど1日で終わっちゃう

デートの場所は した事 無いから 解らない

こんな街に住んでる高校生の ちよつと遅い？
初恋の話

彼女の名前は あや

友達は・・・居たと思う

親友は・・・いいか

そんな事（笑）

クラスの子や友達

話したって広がら無いし

諦めちゃった（泣）

人懐っこい性格なのに
ウザかったのかなあ？

まあ 仕様が無いよね

あやが初恋の人と会ったのは もう少し後の事
学校帰り 寄り道したのが運命の始まりだった

そこは小さな楽器店

あやは店員とギターの話で盛り上がっていた
「欲しいけど高いし 買えないって」なんて
そこに 福田さんと言う人が 話かけて来て ギターをくれるって
言うんです

楽器店の常連らしいけど
有り得る？不思議だよね

まあ「大丈夫だよ」って
店員も言ってくれたし
元々 欲しかったし
素直に 貰っちゃった

次の日

お礼の手紙を書いて 店員に渡して貰ったんだけど
(ギター とっても嬉しいです でも どうして くれたんですか
?)

返事は有りませんでした

けど 折角貰ったし
練習を始めてみたんだけど 音合わせから解んない

ここは困った時の楽器店
早速 相談に行くと

「この人 上手だよ！教えて貰ったら？」って
丁度 店に居た人を紹介してくれた

「どもっ 山口です 山ちゃんでもいいよ」って

（なんか 馴れ馴れしい）

「初めまして あやです

でも 良いんですか？」

挨拶をしながら 遠慮しつつ聞いてみると

「良いよ 1つだけ条件あるけど」 って

（何だろう？）

壁に貼って有るポスターを指差しながら

「あれに出ない？ 出るなら教えるけど！」

ポスターには

（アマチュア音楽祭）

って書いてある

「何ですか？ これ」

あやが聞くと

「見ての通りだよ！ 弾ける様になって 出て見ないか？」 って

（簡単に言うなあ）

悩みに悩んで・・・

「ギター弾きたいし やってみる！」

無謀にも挑戦する事に 決めちゃった

（何とか なるよね）

いよいよ練習開始

まずは 山ちゃんの手本

すっごく上手い

（ここまでは無理だけど

弾ける様になりたいな）

なんて思いながら

チューニング ドレミ

ストローク等々

練習 練習 たまに息抜き

しかし 下手くそ

しかも ちょっと音痴

(大丈夫かなあ?)

自分でも ちょっと不安

山ちゃんも お手上げ?

みたいで 応援を呼んじやった)

「こんにちは 君があやちゃん?俺は樹たつき
よろしくな!」

(うわー 笑った顔 可愛いー!!)

樹さんへの第一印象(笑)

樹さんは

山ちゃんのバンド仲間で

ベース・ボーカル担当

ちよっと小太り(笑)かな

身長は165cmくらい?

年齢は23才だって・・・

16才のあやにとっては

大人に見えるよねえ

「んじゃ 練習するか」

樹さんの一言で練習開始

専門はベースだけど

ギターも 超々上手いの

ボーカルだけあって

歌も上手くて

聞いてて・・・うっとり

ぽくっとなっちゃった

あやは 二人に教わって
なんつとか 簡単な曲を弾ける様になったんだけど
まだ ちよつときこちない

それでも 時間は過ぎて
いよいよ本番当日

小さな会場に5・60人
結構 入ってるみたい

あやは自分の出番まで
別室で待機
すつごく緊張しまくり

時々 演奏や笑い声が聞こえて来る

次 あやの演奏が始まった

全然 全く 全部 駄目
歌も声が震えるし
ギターも更に下手だし
緊張の所為も有ってか
散々な結果・・・(泣)

でも1つだけ嬉しい事が
有ったんだあ

樹さんが あやの頭を ポンポンって撫でて
「あや 良くやったね」 って言ってくれたの

(すつごく 嬉しい)

とりあえず 一大イベントが終った
後 暫くは普通の生活
学校へ行ったり

楽器店に寄り道したり

樹さん達の練習を見たり

ギターの練習を たまにしたり (笑)

早いね もう一年がたちやった

店には またポスターが

(アマチュア音楽祭)

あやは今年 出る気は無かった ・ ・ 無かったのにい
山ちゃんと樹さんが

「今年も出るべ? って言うか 出れなっ! !」

(ほとんど 強制?)

具図っていると 樹さんが

「やれば! 間違い無く去年より上手いと思うや」

また 頭をポンポン

(子供扱いしてえ)

まあ 嬉しいけど・・・

結局 樹さんに言われて

出る事にしちゃった

決めたからには気合いを

入れてっ・・・

歌を 作っちゃった

出来はどうであれ

心は込もってますよ（笑）

それに 今回あやは準備からお手伝い

（樹さんと いっぱい話せる〜）

早速 手伝いを・・・

とは言うものの 言われた事をするだけで目が回りそう

会場のセッティングや受付等 その他色々

合間に 皆で昼御飯

大変だけど楽しいよお

好きな人と ずっと一緒にだもん（笑）

楽しくって はしゃぎ過ぎちゃった

転んで怪我を・・・

大した事は無いんだけど

樹さんが「大丈夫か？」

そう言いながら絆創膏を貼ってくれた

（やっぱ 優しいなあ）

後は自分の出番まで控室で待機

去年よりは落ち着いてる

（さて 次だ）

ステージの横で待っていると「頑張れよ！」って

樹さんが 声を掛けて来た

いよいよ ステージへ

全部で4曲

3曲歌い終って 次は

あやのオリジナル曲

あやは心を込めて歌う

時々 樹さんの方を見てみると ちょっと困った様に笑っている

歌い終ってステージを降りた あや

もう一度樹さんを見ると

あやを見て 笑った

あやは一旦 控室で落ち着いてから 他の人の演奏を見に行っただけで
なんか照れ臭くって 樹さんの近くに行けなかった

「やっぱ去年より いゝや

！！上手くなってる

にしても さっきの歌は

何や？」

樹さんが笑いながら側に来て聞いた

「いゝでしょっ！心が込もってて（笑）」

あやは少し 照れた様に

答えた

樹さんは笑って

「今日 打ち上げ有るから帰るなよっ」

そう言って戻って行った

間も無く演奏も終って

後片付け・・・

賑わっていた場所も 段々寂しくなってくる

（終っちゃったあ）

片付けも終って 会場へ

反省会と言う名の飲み会

(まあ 普通だよな)

準備も整って

「んじゃ 今日はお疲れ様でした かんぱーい」

《かんぱーい》

後は 皆で大騒ぎ

あやは少し疲れちゃって
ちよつと涼みに外へ・・・

そこへ「ラジオでも 聞かか？」そう言って樹さんがラジオを持っ
て あやの隣に座った
暫くして ラジオから聞こえてきたのは

「待つわ」あみんの曲
最後まで聞いて あやは
涙が ポロポロ

「これ(歌) おめーみたいだな」
樹さんが 一言

あやは涙が止まらない
樹さんは酔っているのか
あやを・・・抱き寄せた

(えっ！何？)

ドキッとしながらも そのまま泣いていた

(ずーっと このままなら良いのに)

ギュッと しがみついて樹さんの顔を見上げると

樹さんの顔が・・・

あやは ビックリ

慌てて目をつぶった

ファーストキス

(嬉しいけど ちょっと恥ずかしい様な気分)

「そろそろ帰んなきゃ」

あやは立ち上がって皆の所へ戻って 挨拶

あやが帰ろうとした時

「暗いから送る」

樹さんが 送ってくれた

帰り道

ただ ゆっくりと手を繋いで家へと向かって歩く

あやの家が見えてきた

樹さんが

「後 大丈夫だな！じゃあ

おやすみな」って

帰りかける

あやは樹さんの手を ギュッと握って上を見上げた

(まだ 一緒に居たい)

樹さんは あやのオデコに・・・チュッ

「じゃな 早く寝れよ」

・・・・・・ (帰っちゃった(泣))

その夜 あやは ずっと眠れずに過ぎた

数ヶ月後

避けられているのか

中々 樹さんと会えない

そんな あやに

楽器店の店員が

「樹さんが来週の日曜10時に　ここに来いって」

イライラしてる　あやを見て店員が　樹さんに言ったら言付かったらしい

1ヶ月以上にも感じた
1週間

楽器店に行くと　樹さんは　もう来ていて

「じゃあ　行くか」って

（何処に行くんだろう？）

ついて行くと　近くの喫茶店の中へ

あやは缶コーヒーも飲めないし・・・初めて入る

「何飲む？」

樹さんが　あやに聞く

「ホットミルク」

あやが答えると

「そっか　コーヒー駄目だっけ？じゃあ　ホットミルク　2つ」

あやに合わせてくれた

（コーヒー好きなのに

やっぱり　優しいなあ）

嬉しくって笑っちゃった

でも　次の瞬間

「あの時は　ごめん」って

（あの時って・・・たぶん）

「あやの気持ちに答えられ無いのに・・・本当にごめんな」

樹さんの「ごめん」の言葉だけが頭の中で回って

あやは・・・ただ頷く事しか出来なかった

家に帰り 樹さんの話を
思い返してみる

（振られたんだあ）

涙が止まらない

一晩中 ずっと ずっと

眠れずに・・・

次の日

見事に腫れあがった目

そのまま学校へ行ったら

やっぱり 心配？されちゃった

「どうしたの？」 「何が有ったの？」 皆が聞いて来る

「何でも無いよ」

あやは 何も言わない

何でって？

だって皆 半分は 興味本意でしょっ？

それに 割りきらなきゃって・・・

心は痛い けど時間は過ぎていく 忘れられないけど時間は・・・
進んで

卒業の日を 迎えた

樹さん達が祝ってくれて

「赤点ギリギリで 良く卒業出来たな！まっ 何にしても おめでとう」

樹さんが あやに話かけた

「ありがとう」

あやは 笑いながら答えた

最後は結局 飲み会になっちゃったけどね（笑）
（楽しかったなあ）

帰りは また送ってくれた
（振られても 嬉しい）

家の近く・・・
あやから 最後の お問い合わせ
樹さんは
あやの唇に・・・

「樹さん 今までありがとう・・・バイバイ」

あやは 間もなく
この街を 離れる・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1170f/>

二年半の片思い

2011年1月26日05時04分発行